

寝屋川民報

議会版

発行
日本共産党
寝屋川市議員団
824-1181
(内線 2399)
FAX No. 824-7760
Email: jcpncc@cc-net.or.jp
No. 1919

田中 ひさ子
国松町 10-36
☎ 823-1714

寺本 とも子
豊里町 38-1-105
☎ 829-9424

中林 かずえ
宝町 4-33
☎ 839-2289

中谷 光夫
高宮 155-8
☎ 823-5947

松尾 信次
下木田町 12-6
☎ 821-7427

いのち輝く学校と地域を みなぎる200人の熱気



基調講演中の広木克行氏
(神戸大学発達科学部教授)

あいつぐ少年事件の要因は

「孤立」・「競争」・「負の落差

2月5日、市民会館小ホールで、「子どもの安全と少年事件を考える」つどい実行委員会が、「再び、いのち輝く学校と地域を」――「中央小事件」から一年、子どもの安全と教育を考えるつどいを開きました。

井上圭史実行委員長の主催者あいさつを受けて、広木克行神戸大学発達科学部教授が基調講演をおこないました。

広木氏は、長崎、佐世保の事件、そして寝屋川の事件について、教訓を明らかにしない報道や行政の対応に違和感を感じてきたと述べ、少年事件から教訓

を学ぶうえで、刑法犯の少年は増えていないことをふまえて、良い子でおとなしい勉強できる子が、突発的にキレて起こす凶悪事件が増えていることなど、次の問題点を指摘しま

「ヘルプ」は子どもの権利 子どもを受けとめるよう

広木氏は、今回の市民アンケートに関して、返信の数のすごさと内容を大きく評価し、また、寝屋川事件の家裁決定にもふれながら、凶悪事件がなぜ起き、なぜ増えているのか。それは、トランプゲームで言えば、ロイヤル・ストレート・フラッシュのように、すべての悪条件が揃ったということだと述べ、次の3つをあげました。

- ①友達も親も教師も、誰からもわかってもらえない本人の孤立。
- ②子育てを能力育成と間違え、コンプレックスを生む競争の現実。
- ③子どもを見えにくく

した。

・刑法改正による厳罰化の動き

・本人の発達障害を事件の要因にしている司法の弱さ

・事件から根本を学ばない教育行政

する「家では良い子、外では手のかかる子」という負の落差。

①子どもが危険を感じた時、なかなか声は出ないもの。日常の授業で、助けを求めるところを権利として声に出していることが重要。

②子どもの話をよく聞き、まるごと受けとめられる親・教師・おとなになる。

の2つのことを提起し、子どもを守る強力な人間関係は、防犯ベールよりもたしかな力になると訴え、参加者の共感を呼びました。

視界

市場競争原理
万能の小泉内閣の政治は、
子どもの教育

にも及んでいます。学校選択制もその一環です。寝屋川では、05年度から小学校入学時におこなわれています▼昨年は、学校統廃合や校区変更の地域を試行モデル的におこないました。全市的でなかった昨年、全学年を対象としたこともありましたが、指定校以外を選択した児童は、240名にのぼりました▼「学校選択制」を全的に実施する場合、通学の安全や発達段階など、市民的な教育的検討が必要と、日本共産党は主張してきました。中央小学校で起きた教職員殺傷事件以後は、圧倒的な市民の声でもあります▼ところが市教委は、住んでいる中学校区の2つの小学校の「学校選択制」を全的に実施するとして、来年度入学児童の希望調査を強行しました▼結果は26名。その理由は、通学距離や転居予定、幼稚園での交友関係などです。市教委が実施の理由にした、「学校の特色」ではありませんでした。市民の良識を感じたのは私だけではないと思います。



住民の健康と環境を守るのは 自治体の責務！寝屋川市

1月31日(火)、夜7時から市役所で、第2京阪道路の沿線住民に対して、「第2京阪道路のアクセス道路説明会」がおこなわれ、約30名の参加がありました。

公害のない第2京阪道路と アクセス道路を「市民の会」

現在、「公害のない第2京阪道路を求める寝屋川・四條畷の市民の会」の人たちが、大阪府公害審査会に公害調停を求めて、すでに12回の審理がおこなわれていきます。寝屋川市でおこなわれた国土

交通省の市民説明会でも、公害調停でも、国側は、国道には責任があるが、府道や市道には管理責任を負う立場にないとの態度に終始しています。

「市民の会」がアクセス道路の交通量予測や交通対策、環境対策、安全対策などを求めて、市に説明を要望していたものです。

市の第2京阪道路対策室の担当者は、説明後の質疑に対して、交通量についても、第2京阪道路沿線全体で検討されるものであり、市のレベルでは答えられないと述べました。

沿線は文化財の宝庫、ぜひ保存を

参加者からは、「もう少し立体的なわかりやすい説明はできないのか。」「交通量が今より減るという予測に

は納得がいかない。」「健康被害や環境悪化を心配している。寝屋川市は、住民の立場に立って府や国にもものを言ってほしい。」「沿線は文化財の宝庫。住居と墓が一体に残っているのは全国でも稀。トンネル部分の上

が公園になるなら、ぜひ遺跡を示すものをつくってほしい。」などの意見が出されました。

北河内四市リサイクル 施設組合議会定例会のお知らせ

日時 二月十三日(月)午後二時から
場所 市役所議会議棟五階第二委員会室
内容 平成十七年度補正予算
平成十八年度予算
一般質問 ほか
傍聴におこしください



いのち・愛・平和を語り合った

新婦人まつり

2月5日、新婦人まつりが市民会館で開催されました。

各班の多彩な取り組みの展示コーナーでは、手作りパッチワークや絵手紙・押し花、活動紹介の写真やニュースなどに、多くの人が見入っておられました。

今年、中南米音楽のグループ「アルパ」によるハーブやフルート演奏があり、くつろぎの時間と空間を共有しました。

銃を持たせない、人は人を殺してはいけない、すべての命は人を愛するために生まれた。の思いを、新婦人の目的と重ね合わせ、みんなで平和憲法を守ろうと確認し合いました。

「アルパ」の「すべての命」の歌詞にある「人の子の母として」

議員日誌



中谷 光夫

議員団の中で、生活相談が少ない私ですが、今年に入ってから急に増えたように思います。マスクミを巧みに利用しながら、ウソとごまかしで国民の支持を掠め取ってきた小泉政治の「改革」の実像が明らかになってきています。

弱肉強食の社会は、生活困難者を増やしています。本来の政治は、弱者を助け、人間の平等を実現することにあります。逆立ちした政治を正すことこそ、根本問題です。3月議会に向け、心身とともに充電中です。